

**エムティーアイの『ルナルナ』とカラダメディカが主催する
産婦人科医による「女性のカラダの知識講座」を総合社 丸紅にて開催！
～低用量ピルの服薬支援制度も試験導入し、さらに働きやすい職場環境へ～**

株式会社エムティーアイ(以下、「当社」)が運営する、ライフステージや悩みにあわせて女性の一生をサポートする健康情報サービス『ルナルナ』は、当社のグループ会社でオンライン診療システムを提供する株式会社カラダメディカ(以下、「カラダメディカ」と、女性のカラダの仕組みや生理による揺らぎについての理解と意識向上を、女性だけでなく男性にも促すことで、多くの方が働きやすい環境づくりを目指しています。その取組みの一環として、3月10日(水)に産婦人科医による「女性のカラダの知識講座」を、丸紅株式会社(以下、「丸紅」)にて実施します。

また丸紅では、本講座に合わせ、『ルナルナ』とカラダメディカが提供する、産婦人科向けオンライン診療システム『ルナルナ オンライン診療』^{*1}を活用した、生理痛や月経前症候群(以下、「PMS」)などの症状に悩む女性社員を対象とした「オンライン診療を活用した婦人科受診と低用量ピル服薬の支援プログラム」^{*2}の試験導入を3月より開始予定です。

FEMCATION
Fem + Education
by LunaLuna

CHARADA
medica

Marubeni

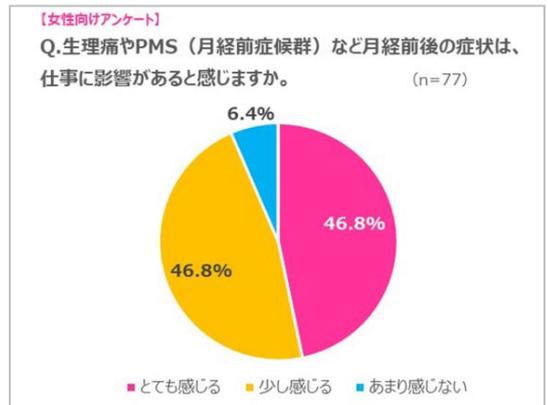
◆健康課題に対する男女の相互理解向上で、働きやすさだけでなく、新たな価値の創出へ

丸紅では、新たにフェムテック領域でのビジネスの創出を目指し、社内にて新プロジェクトチームの立ち上げや、社内理解浸透のためフェムテック関連のセミナーを開催しています。その一方で、総合職の男性社員比率は高く、女性特有の健康課題についてのさらなる理解の促進と、悩みを気軽に相談できるような雰囲気づくりには未だ課題があります。丸紅社員に実施したアンケート^{*3}でも、「生理痛やPMS(月経前症候群)など月経前後の症状は、仕事に影響が感じていますか。」という質問には、9割以上の女性社員が影響を感じていますが、一方で9割以上の女性はPMSなどの症状がひどい時にも、職場では相談しづらいと感じていることが分かりました。

このような背景から、『ルナルナ』が実施する女性のカラダとココロの理解浸透プロジェクト「FEMCATION(フェムケーション)」と、低用量ピルの服薬支援プログラムを提供するカラダメディカが主催する、東京大学医学部附属病院 産婦人科 准教授 甲賀かをり先生による「女性のカラダの知識講座」の開催が決定しました。

本講座にて医師から女性特有の症状に関わる正しい知識を学ぶことで、女性社員だけではなく、男性社員も含め社内全体で生理痛やPMSなどの症状に対する理解と意識を向上し、男女ともにより働きやすい職場づくりに貢献します。

(アンケートの詳細は、別紙「参考資料」にてご確認いただけます。)



◆低用量ピルの服薬支援制度を試験導入し、会社が女性社員の健康課題をサポート！

丸紅では、「女性のカラダの知識講座」の実施に合わせ、カラダメディカが提供する「オンライン診療を活用した婦人科受診と低用量ピル服薬の支援プログラム」を、3月より試験導入を開始予定です。

当社では、健康経営の一環として、本プログラムを新たな福利厚生制度として2020年10月より導入しています。同年2月に実施した実証導入時には、生理前や生理中の症状によって日常生活へ影響が出る日数の減少や、仕事のパフォーマンスが向上するなど、女性特有の症状の改善により、ポジティブな変化が確認できました。^{※4}

今回、丸紅にて『ルナルナ オンライン診療』を活用した本プログラムを実施することで、女性特有の症状改善をサポートし、社員がさらに生き生きと働ける職場環境づくりを支援します。

■丸紅株式会社について

会社名：丸紅株式会社

所在地：東京都中央区日本橋2丁目7番1号 東京日本橋タワー

代表取締役社長：柿木 真澄

設立：1949年

事業内容：国内外のネットワークを通じて、ライフスタイル、情報・不動産、フォレストプロダクツ、食料、アグリ事業、化学品、エネルギー、金属、電力、インフラプロジェクト、航空・船舶、金融・リース事業、建機・産機・モビリティ、次世代事業開発、その他の広範な分野における、輸出入（外国間取引を含む）及び国内取引の他、各種サービス業務、内外事業投資や資源開発等

URL：<https://www.marubeni.com/jp/>

■『ルナルナ』について

ライフステージや悩みにあわせて女性の一生をサポートする健康情報サービスです。

アプリの累計ダウンロード数は1,600万以上（2020年11月時点）で、蓄積されたビッグデータを用いて、独自の予測アルゴリズムを確立し、より精度の高い排卵日予測が可能です。生理日管理から、妊活・妊娠・出産まで女性の健康全般をサポートします。

2020年11月の20周年を機に、複雑かつ多様性のある女性のカラダとココロについて正しく学ぶ機会を創出し、年齢や性別を問わず、社会全体で寄り添いあえる環境を目指すプロジェクト「FEMCATION[※]」をスタートし、あらゆる女性たちが、より生きやすく、暮らしやすく、働きやすい社会の実現を目指しています。

★ルナルナ：<https://sp.lnln.jp/> ★FEMCATION：https://sp.lnln.jp/brand/information/our_challenge

※「FEMCATION（フェムケーション）」（商標登録出願中）は、FEMALE（女性）とEDUCATION（教育）を掛け合わせた造語です。

■株式会社カラダメディカについて

当社と株式会社メディカルホールディングスの合併会社です。

予約・診療・決済・薬/処方箋の配送と、オンライン診療とオンライン服薬指導に必要な機能が充実した『CARADA オンライン診療』と、女性の健康情報サービス『ルナルナ』と一部の機能を連携した、産婦人科向けのオンライン診療『ルナルナ オンライン診療』の運営をしています。

★カラダメディカ：<https://caradamedica.co.jp/>

※1：『ルナルナ オンライン診療』についてはこちら

＜医療施設向け＞<https://lp.telemedicine.lnln.jp/> ＜一般の方向け＞<https://lp.telemedicine.lnln.jp/p.html>

※2：「オンライン診療を活用した婦人科受診と低用量ピル服薬の支援プログラム」とは、オンライン診療を活用し、婦人科受診を促し診療にかかる費用と、ピル服薬が必要な場合はその費用を会社が負担する福利厚生制度です。初診は対面もしくはオンラインでの診療を受け、それ以降は適宜スマートフォンにて診療を受けられます。低用量ピルの処方がある場合は自宅に配送されます。

※3：エムティーアイによる、丸紅社員に向けた生理痛やPMSの仕事への影響とピルの服薬に関するアンケート

調査実施期間：令和3年2月25日（木）～3月3日（水）調査対象：20代～50代の丸紅在籍の女性社員106名、男性社員42名

※4：エムティーアイによる「オンライン診療を活用した低用量ピルの服薬支援プログラム」について：<https://www.mti.co.jp/?p=26594>

報道関係の方からのお問い合わせ先

株式会社エムティーアイ 広報室

TEL：03-5333-6755 FAX：03-3320-0189

E-mail：mtipr@mti.co.jp URL：<http://www.mti.co.jp/>

プログラム導入に関するお問い合わせ先

株式会社カラダメディカ

TEL：03-5333-6404 FAX：03-3320-0189

E-mail：pr@caradamedica.co.jp

URL：<https://caradamedica.co.jp/>



CARADA medica

《参考資料》

エムティーアイによる、丸紅社員に向けた女性特有の健康課題に関するアンケート

調査実施期間:令和3年2月25日(木)~3月3日(水)

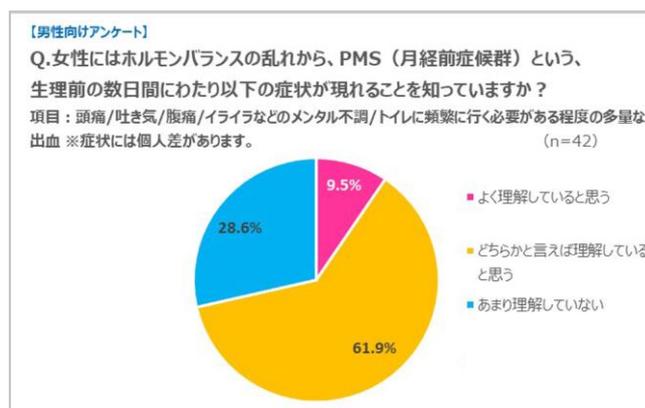
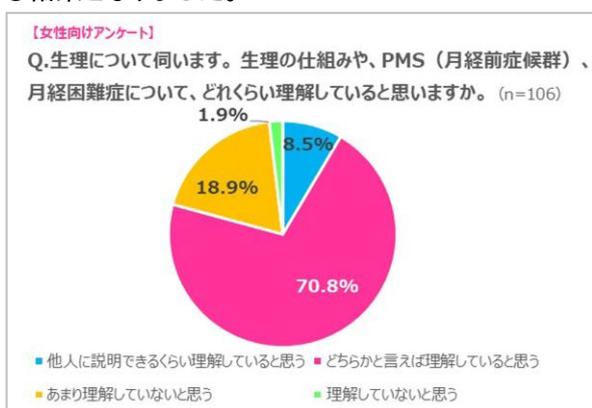
調査対象:20代~50代の丸紅在籍の女性社員106名、男性社員42名

◆生理やPMSなどについて自身が理解していると感じている人は、男女ともに7割以上！

Q. 生理について伺います。生理の仕組みや、PMS(月経前症候群)、月経困難症について、どれくらい理解していると思いますか。

女性社員に対し、生理に関わる症状に関して、自身がどれくらい理解しているか聞いたところ、「他人に説明できるくらい理解していると思う」8.5%、「どちらかと言えば理解していると思う」70.8%と、約8割の女性は理解していると自覚があることが分かりました。

男性社員に対しても、女性特有の症状に対してどれくらい理解しているか聞いたところ、「よく理解していると思う」9.5%、「どちらかと言えば理解していると思う」61.9%と、7割以上の男性が、女性特有の症状を理解していると感じている結果となりました。



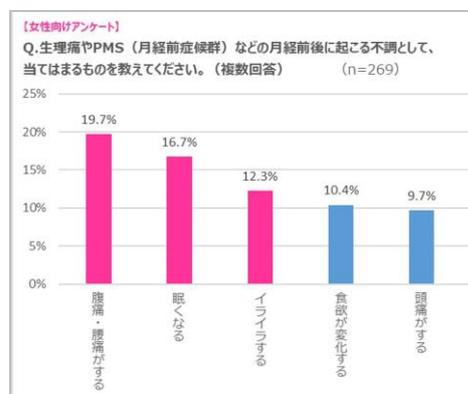
◆9割以上の女性が、生理通やPMSなどの症状が仕事に影響していると感じている！

Q. あなたには普段、生理痛やPMS(月経前症候群)などの月経前後に起こる不調がありますか。ピルを服用している方は、ピルを服用していなかった場合の症状を教えてください。

※PMS(月経前症候群)とは、生理前に起こる気持ちやカラダのさまざまな不調のことです。

続いて、普段から生理痛やPMSなどの症状があるか聞いたところ、「いつもある」45.3%、「たまにある」27.4%で、7割以上の女性は何らかの不調を感じていることが分かります。

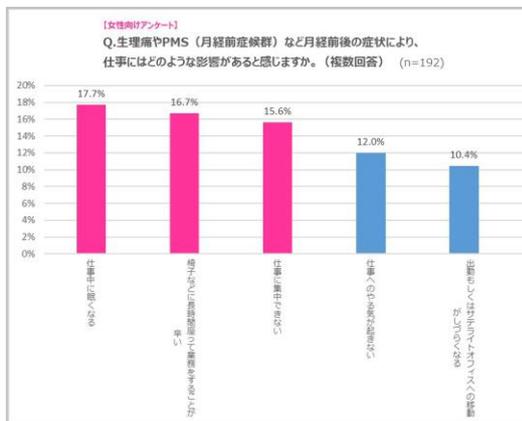
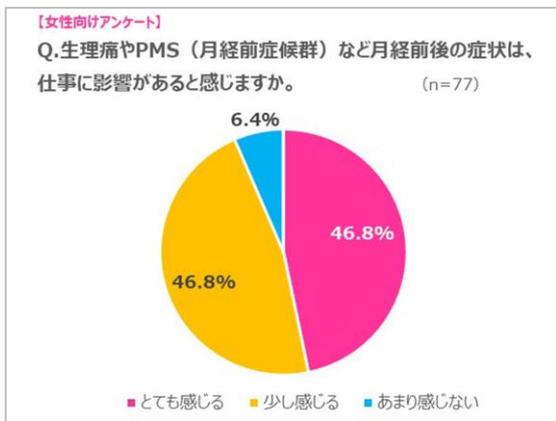
「いつもある」「たまにある」と答えた人に、具体的な症状を聞いたところ、「腹痛・腰痛がする」19.7%、「眠くなる」16.7%、「イライラする」12.3%と、女性特有の様々な症状が日常生活に支障をきたしているようです。



Q. 生理痛やPMS(月経前症候群)など月経前後の症状は、仕事に影響があると感じますか。

生理痛やPMSなどの症状が、仕事に影響があると感じるかを聞いたところ、「とても感じる」46.8%、「少し感じる」46.8%を合わせると、9割以上の女性社員が仕事に影響があると感じているようです。

具体的な症状について聞いたところ、最も多かった回答が「仕事に眠くなる」17.7%、次いで「椅子などに長時間座って作業がすることができない」16.7%、「仕事に集中できない」15.6%となり、生理痛やPMSなどの症状は、日常生活だけでなく、仕事面でもやる気や効率が低下するなどパフォーマンス低下につながる影響が出ていることが分かります。

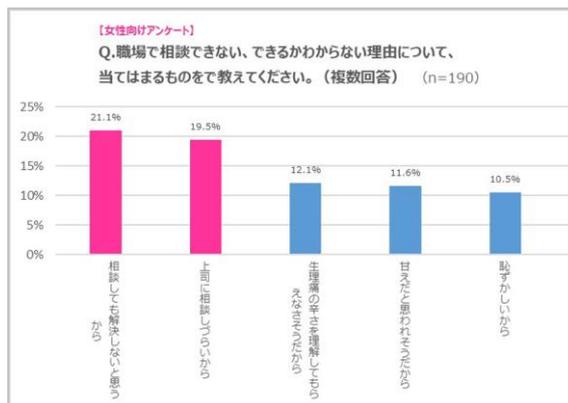


◆ 生理痛や PMS などの症状が辛いときに相談できる女性は 1 割弱。理解してもらえないと不安の声が多く

Q. 生理痛や PMS（月経前症候群）など月経前後の症状がひどい場合、職場で相談することはできますか。

では、丸紅の女性社員は、生理痛や PMS などの症状がひどいときは職場で相談できているのでしょうか。「できる」と回答した人は 7.8%にとどまり、「できない」50.6%と「わからない」41.6%を合わせると、9 割以上の女性が相談しづらいと感じていることが分かります。

「できない」「わからない」と答えた人に具体的な理由を聞いたところ、最も多かった回答が「相談しても解決しないと思うから」21.1%、次いで「上司に相談しづらいから」19.5%となりました。男性社員が多い総合商社という環境のなかで、職場で相談しても理解につながらないことに不安を感じている女性社員が多いことが分かります。また、相談できない場合には、市販薬やサプリメントを利用して症状を緩和していたり、我慢してやり過ごしているという意見も多く挙がりました。

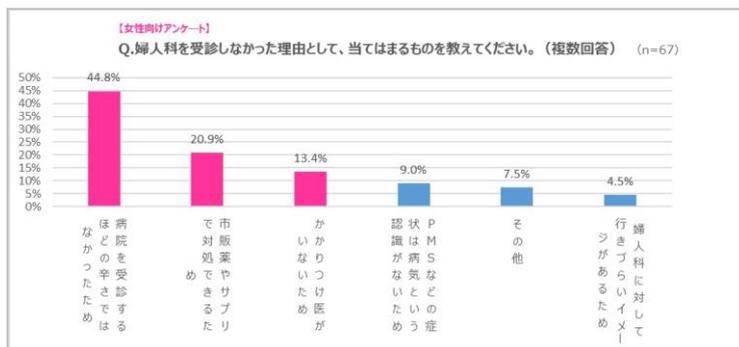
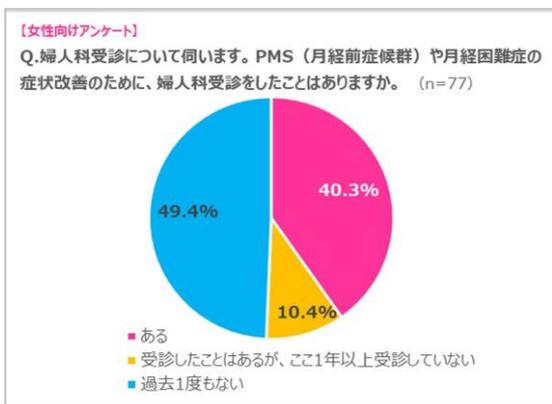


◆ 約半数の人が PMS などの症状改善のための婦人科受診やピルの服薬は未経験！

Q. PMS（月経前症候群）や月経困難症の症状改善のために、婦人科受診をしたことはありますか。

では、PMS などの症状を感じている人はどのように対処しているのでしょうか。症状改善のために婦人科受診をしたことがあるか聞いたところ、「ある」40.3%、「受診したことはあるが、ここ 1 年以上受診していない」10.4%、そして「過去 1 度もない」49.4%と、約半数の女性は婦人科受診が未経験であることが分かりました。

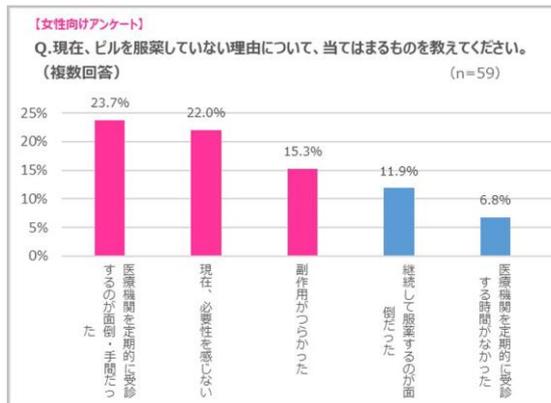
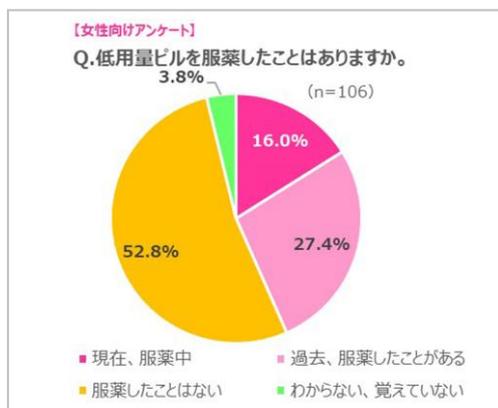
「過去 1 度もない」「受診したことはあるが、ここ 1 年以上受診していない」と回答した人にその理由を尋ねてみると、症状が受診するほどの辛さではない、市販薬やサプリメントで対処できるという意見に次いで、かかりつけ医がない、PMS などの症状は病気という認識がないという回答もあり、婦人科を受診へのハードルの高さや、PMS などの症状への正しい知識が不足していることが分かりました。



Q.低用量ピルを服薬したことはありますか。

次いで、低用量ピルの服薬経験を聞いたところ、「現在、服薬中」16.0%、「過去、服薬経験がある」27.4%、「服薬したことはない」52.8%、「わからない、覚えていない」3.8%と、低用量ピルの効果などは理解しているけれど、実際に服薬経験がある人は半数以下にとどまっていることが分かりました。

では、どのようなことが低用量ピルの服薬のハードルとなっているのでしょうか。低用量ピルの服薬経験がある人に、現在服薬をしていない理由を聞いたところ、最も多かった回答が「医療機関を定期的に受診することが面倒・手間」23.7%と最も多く、低用量ピルの服薬は定期的な婦人科への受診が必要なため、働く女性にとって通院・診療にかかる時間が継続利用のネックになっているようです。



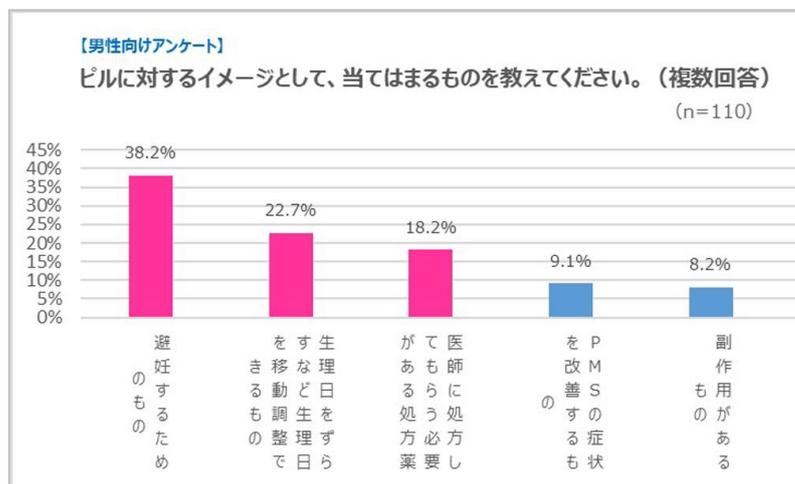
◆男女で低用量ピルに対する認識にギャップが！？治療目的の効果をj知る男性は半数以下に…

Q. 低用量ピルに関して伺います。生理痛や PMS(月経前症候群)など月経前後の症状を改善する方法のひとつとして、低用量ピルが活用されることがあることを知っていますか？

多くの女性が生理痛やPMSなどの症状に悩まされていますが、低用量ピルがそれらの症状を和らげる効果があることを知っているか聞いたところ、「知っている」61.3%、「なんとなく知っている」26.4%と、8割以上の女性が効果について理解しているようです。

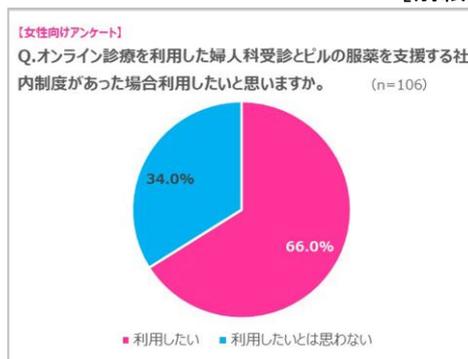
男性にも女性と同様に低用量ピルの効果に関する理解度について聞いてみました。「知っている」14.3%、「なんとなく知っている」31.0%、「あまり知らない」35.7%、「全く知らなかった」19.0%と、半数以上は、生理痛やPMSなどの改善の治療法として用いられていることを知らないという結果となりました。

では、男性は低用量ピルに対してどのようなイメージを持っているのでしょうか。最も多かった回答が「避妊するためのもの」38.2%、続いて「生理日をずらすなど生理日を移動調整できるもの」22.7%という結果となり、8割以上の女性は治療目的の低用量ピルの効果を理解している結果と比べると、男性と女性の間で低用量ピルに対する認識のギャップがあることが分かりました。



Q. オンライン診療を利用した婦人科受診とピルの服薬を支援する社内制度があった場合利用したいと思いますか。※婦人科受診とピルの服薬を支援する社内制度とは、オンライン診療を利用し婦人科受診／ピル服薬支援と、その費用を会社がサポートする制度の事です。

丸紅が3月より試験導入を予定している「オンライン診療を活用した婦人科受診と低用量ピル服薬の支援プログラム」を、社内制度としてあった場合、利用を希望するかを聞いたところ「利用したい」66.0%、「利用したくない」34.0%となりました。



Q. オンライン診療を利用した婦人科受診とピルの服薬を支援する社内制度があった場合利用したい理由を教えてください。(自由回答)

「利用したい」と答えた人に、その具体的な理由について聞いたところ、様々な意見が寄せられましたので、その一部を紹介します。

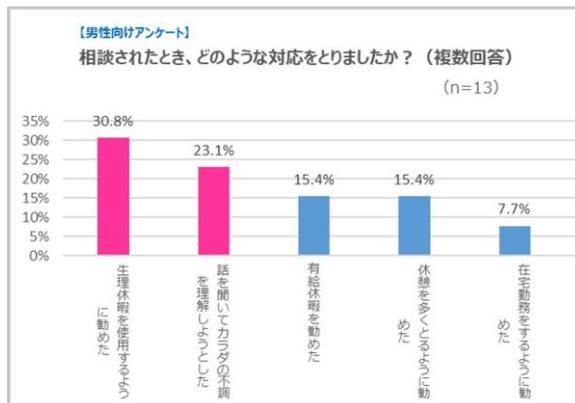
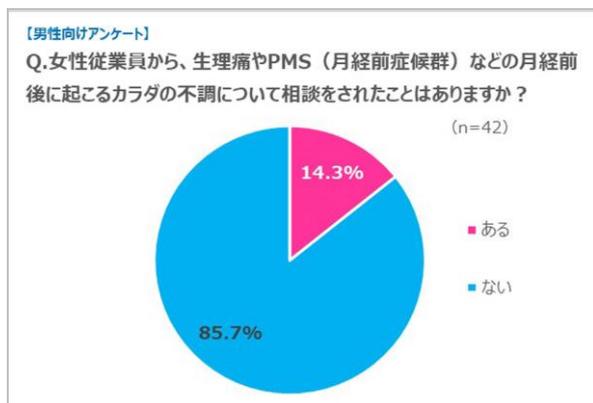
- ★自分でいちから婦人科を探さなければいけないなど無いと理解したのですが、それであればどこに行くか悩まなくて済み、2回目以降はオンラインで済むので、効率的だと思う。費用負担以上に、今まで以上にアクセスしやすくなるイメージがある。
- ★数年前より生理不順のため、低用量ピルを服用、現在はオンライン診療を利用し、低用量ピルを服用している。当方としては費用を会社にてサポートいただけるようになれば嬉しい。また、他の人に関しても社内制度として確立されれば低用量ピルに対してのハードルが下がると思う。
- ★出張などもスケジュールコントロールし易くなりそうのため。
- ★費用面のサポートというよりも、会社が制度化することによって女性の体調についての配慮が浸透することが期待できるため。

◆女性から相談経験がある男性社員は2割弱、一方職場で話題に上がることに抵抗を感じない人は約6割

Q. 女性従業員から、生理痛やPMS(月経前症候群)などの月経前後に起こるカラダの不調について相談をされたことはありますか？

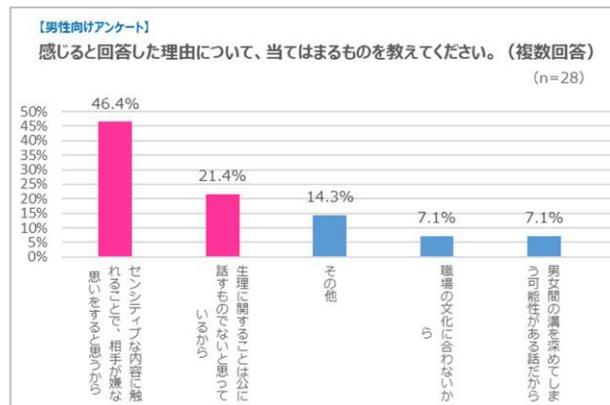
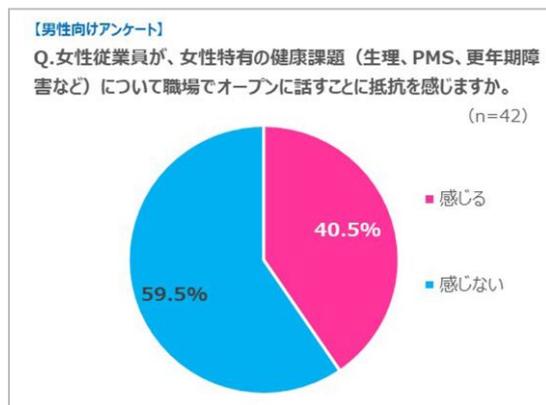
続いて、男性社員を対象に、女性特有の症状について女性社員から相談されたことがあるか聞いたところ、「ある」14.3%、「ない」85.7%となり、女性特有の症状に関して相談された経験のある男性は2割弱となり、女性社員にとっては相談しづらいと感じているのかもしれない。

では「ある」と回答した男性に、どのような対応を行ったのか聞いたところ、「生理休暇を使用するように勧めた」30.8%が最も多く、次いで「話を聞いてカラダの不調を理解しようとした」23.1%という結果になりました。



Q. 女性従業員が、女性特有の健康課題(生理、PMS、更年期障害など)について職場でオープンに話すことに抵抗を感じますか。

それでは、職場で女性社員の相談が少ない状況のなか、男性社員は女性の健康課題について話すことに抵抗を感じているのでしょうか。「感じる」が40.5%、「感じない」は59.5%となり、半数以上の方は職場で話題が挙がることに抵抗を感じていないという結果となり、感じない理由として自由回答では、健康課題は性別関係なくあることだから、知ることによって相互理解につながるからという声が多く挙がりました。一方で、抵抗を感じる理由としては、最も多かった回答が「センシティブな内容に触れることで、相手が嫌な思いををすると思うから」46.4%と、男性側も配慮したいと思っても、気軽に話題に挙げることで女性社員を傷つけてしまうのではないかと不安を感じていることが分かります。



Q. 男女関係なく働きやすい社内環境づくりをする上で、必要なことはどのようなことが考えられると思いますか？

最後に、女性社員、男性社員に対し、会社でどのようなサポート制度があれば、より女性が働きやすくなるかについて、意見を聞きました。女性社員（複数回答）では「時差出勤をしやすい社内環境づくりをする」21.1%が最も多く、次いで「婦人科受診／ピル服薬などの新しい支援制度の充実を図る」18.9%となりました。

また男性社員の自由回答では、男性、女性に関わらず相互の健康について理解の促進や、新たな環境づくりの必要性など、多くの意見が寄せられましたので、一部を紹介します。

【男性社員より】

- ★カラダの仕組みとその症状、仕事への影響を知ること。社員がソリューションを気軽に活用しやすくすること。その一方で権利ばかり主張する／主張されていると感じる社内の雰囲気にはしないこと。
- ★女性からの改善策を公開し、採用できる環境づくりが必要ではと考えます。何が望まれ、何がNGなのか分かりやすくすべき。
- ★複数人でサポートできる体制が理想だが、柔軟なりモートワークや会議時間の変更など、本人が無理のない形で業務が進められるように調整が出来る社内環境。
- ★先ず男女関係なくリテラシーを上げる場づくり、取り組みを会社、グループ全体で積極的に推進する。並行してビジネス展開の視点でも大きな可能性を具体的に露出していく。
- ★女性特有の健康課題を男性が配慮できる状況はなかなかないと思っており、女性も男性の上司には相談しづらいことを考えると、長期的になってしまいますが、女性の上司がもっと増えないとなかなか現実的には難しいのかと思いました。もしくは女性が相談しやすい制度設計（診療所のような組織に窓口があり、そこに相談、上司には別途連絡）があればより女性が働きやすくなるのではないのでしょうか。